

第6学年 家庭科 学習指導案

奈良教育大学家庭科教育専修

光延ひなた

1 単元名 「災害時の食生活—自分たちが家庭や地域のためにできること—」

2 単元の目標

- 災害時の家庭や避難所での生活の特徴を知り、そこから食生活に起こる問題について考え、自分たちも家庭や地域のためにできることがあると理解することができる。
- 防災クッキングの方法や災害時の生活について調べたことや考えたことを家族や地域の人に伝わるように防災カードにまとめることができる。 (知識及び技能)
- 避難所の様子を調べ、災害時の食生活について課題を見出し、防災クッキングで得た技能を使って家庭や地域の一員としてできることを考え、単元を通して調べたことや自分の考えを防災カードにまとめて家庭や地域の人々に分かりやすく伝えることができる。 (思考力・判断力・表現力)
- 自分自身が家族や地域の一員としての家庭生活を支える役割があることを自覚し、家族や、地域の人々とより良い関係を築くために、意欲的に防災クッキングに参加したり、学んだことを防災カードにまとめ、学習したことで日常生活を見直したり、生活に活かそうとすることができる。 (主体的に学習に取り組む態度)

3 単元について

(1) 教材観

本単元では、地震などの自然災害を想定し、「災害によって生活がどのような影響を受けるのか」「非常時における食生活」「自分たちが地域の一員としてできること」を教材として取り上げる。

災害時の様子や被災者の声を知ることを通して、災害を経験した人の気持ちを知り、写真や映像を通して災害時の様子を具体的に知ること、防災クッキングを実際に行う活動を通して児童自身が自分たちも家庭や地域の一員としてできることがあるということに気づかせる。

学習のまとめとして、防災クッキングの方法や災害が起きた際に気をつけること、事前の準備等を記入した防災カードを作成する。防災カードは日常生活で簡単に手にとって見直せるものとし、家庭に持ち帰って単元を通して学習したことや自分にできることを家族に伝えること、また家庭で防災について話し合うきっかけとすること、学校ボランティア等で関わりのある地域の人に配布することを通して、地域の人とよりよく関わるきっかけとしたい。

(2) 児童観

本学級の児童は、家庭生活に関心をもち、話し合い、体験的な活動に意欲的に取り組む児童が多い。一方で、家庭での役割分担や非常時への備えについては家族で話してい

る児童が多いものの、地域の人々と災害時にどのようなかかわりがあるのか、自分自身が家庭や地域の中で暮らす一員としてできることについては考えた経験のある児童は少ない。

今までの家庭科の学習では、日常の食事づくりやバランスのよい食事について学習しているが、被災した経験やライフラインがいつも通り使用できないという経験がなく、情報が断片的であり、災害時の生活をイメージすることが難しい児童が多い。

(3) 指導観

本單元では、児童が災害時の課題を見出し、家庭や地域で生きる一人として自分たちができることを考え、家庭や地域の人々とより良い関係を築けるように指導したい。

本単元の指導にあたっては、避難所の様子や被災者の声を知ることで、災害時の生活を具体的にイメージしやすくすることで、災害時の生活の課題を見出し、自分にできることを考える力を身につけさせたい。

また、災害時の食生活に注目し、防災クッキングの実習を取り入れ、実際に防災クッキングを体験することで児童自身が災害時に役立つ調理方法を習得するとともに、自分にも家庭や地域のために貢献できることがあると実感させたい。

学んだことや自分が考えたことを家族や地域に伝えるための防災カード作成の活動を通して、家庭科で学んだことを生活の中で生かそうとする態度や地域との協力や関わり方を体験させる。防災カードは、日常生活で視認しやすい場所に掛けられるようにリングで綴じ、学習したことを振り返りやすくなるように工夫する。

児童が主体的に学習に取り組めるよう、調理実習を行ったり、児童の興味のあることを調べたりする活動を通して、学習後も児童が地域の人々とより良い関係を築こうとする意欲を育成する。

(4) ESD との関連

・本学習で働かせる ESD の視点 (見方・考え方)

有限性…限られている食材、生活資源を活用する

連携性…災害時に周りの人や地域の人のために自分ができることがある

・本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

未来像を予測して計画を立てる力

災害時に起こりうる状況を予測し、計画を立てる力

災害が起こったときのために日ごろからできることを考え、準備をすることができる。

進んで参加する態度

家族や地域の人のために地域で共に生活する人として、地域の人々が防災を見直すきっかけを作ることや、災害時に自分たちのできることを身に付け、自分から行動する。

・本学習で変容を促す ESD の価値観

幸福感に敏感になる。幸福感を重視する

限られた食材や道具などの生活資源なかでも自分や家族、地域の人たちの健康や命を守る工夫、生活をより良くする方法を考え、ひととのつながりの中で得られる幸福感に気づき、大切にできる。

・達成が期待される SDG s

- 3 すべての人に健康と福祉を
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任

4 単元の評価規準

| (ア) 知識及び技能 | (イ) 思考力・判断力・表現力等 | (ウ) 主体的に学習に取り組む態度 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>①災害時の家庭や避難所での生活の特徴や、食生活に起こる問題、災害時には地域の人との協力が大切であることを理解している。</p> <p>②学んだり、調べたりして分かったことや、災害時や災害が起きる前に自分たちが家庭や地域の人々とよりよく関わるためにできることを伝えるように防災カードにまとめている。</p> | <p>①避難所の様子を調べることを通して、災害時の食生活について課題を見出し、自分自身が地域の一員としてできることを考えている。</p> <p>②災害時や災害が起きる前に地域の人とよりよく関わるためにできることを考え、家族や地域の人々に防災カードを作成する活動を通して家庭や地域の人々に伝えている。</p> | <p>①自分自身が地域の中で暮らす一員であるという自覚をもち、自分たちが家庭や地域のためにできることを増やそうと意欲的に防災クッキングに参加している。</p> <p>②学んだことを地域の人や家族の人に伝えるように防災カードにまとめ、発信しようとしている。</p> |

5 単元の指導計画 (全 13 時間)

| 学習活動 | ○学習への支援 | ○評価・備考 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------|
| <p>1 災害によって自分たちの生活がどのように変化するかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気やガスが使えない ・食べるものに困る ・避難所で生活することになる <p>2 能登半島地震で実際に被災した方の声をドキュメンタリー映像で知る、避難所の様子をインターネットや本で調べる。</p> <p>【出典：能登半島地震 過酷な避難所生活 https://youtu.be/utIE7HhgHL8?si=yXMaQEiUC0C1eWgq】</p> | <p>○能登半島地震の写真を提示し、災害時の様子を想像させ、自分たちの生活の普段の生活と比較させて、災害によって生活がどのように変わるかを考えさせる。</p> <p>○実際に被災をした方の声や災害時の様子をしらせ、どのようなことに問題を抱えているのかを考えさせる。</p> <p>○前時で考えたことや、映像を通して興味をもったことをインターネットや本等を使用して調</p> | <p>ア① (知・技)</p> |

| | | |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 食事の質の低下、栄養不足 ・ 地域の人、異なる世代の人と生活することになる ・ 限られた資源・水での生活 ・ 避難所では地域の人同士の協力や助け合いが欠かせない | <p>べ、避難所でどのようなことが不便なのかを考えさせる。</p> | |
| <p>3 防災クッキングを行う（乾物を使ったサラダ・ポリ袋調理）お皿にラップを敷く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ できるだけ少ない資源で調理している ・ 災害が起こる前に非常食を準備することや、調理方法を知っておくことが大切 ・ 自分たちにもできそう、地域のためにできることがある | <p>○防災クッキングを行う際に、普段の調理とどのような違いがあるかを考えながら調理実習を行うように伝える。</p> | <p>ウ① (主体的)</p> |
| <p>4 災害が起こる前や災害時に自分たちが家庭や地域の人々とよりよく関わるためにできることを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 非常持ち出し袋の中身を家族と確認する ・ 災害時の炊き出しを手伝う ・ 防災クッキングの方法を家族や地域の人に伝える ・ 地域の防災訓練に参加する | <p>○今までの学習で学んだこと、防災クッキングを通して考えたことからできることを考えるように促す。</p> | <p>イ① (思判表) ア① (知・技)</p> |
| <p>5 活動のまとめとして、防災カード作りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家族や地域の人が避難所でより良い生活ができるように学んだことを伝えたいな。 ・ 自分たちにもたくさんできることがあったから伝えたい | <p>○授業を通して考えたこと、これからやっていきたいことに加え、前時で考えた自分たちにできることや防災クッキングの情報、防災のための事前準備等、家族や地域の人に伝わりやすいようにまとめるよう指示する。</p> | <p>ア② (知・技) イ② (思判表) ウ② (主体的)</p> |

防災カードの具体例

● ✓ 地震発生時は、

①机の下に隠れて身を守る

✓ 地震直後は、

②コンロなどの火を消す
③窓や扉を開けて避難経路を確保
④避難が必要なときは慌てず外へ出る

● 災害に備えた準備

✓ 避難所、避難経路の確認
✓ ハザードマップを見て危険な場所を知る
✓ 家族で避難の約束を決める

✓ 家具を固定する
✓ 非常持ち出し袋の用意

● 防災クッキング【ポリ袋ご飯】

材料：米1合、水1.2合

作り方

①米と水をポリ袋に入れて空気を抜き、30分浸水する
②鍋に湯を沸かして、25分湯煎する
③湯から出して5分蒸らす

● ふりかえり

授業を通して感じたこと
災害に備えてこれからやっていきたいと思うこと

「開隆堂 わたしたちの家庭科5・6」

P129 やってみよう「地域かかわりプロジェクト」の流れを基に作成